

## バレーボール大会四年ぶりに開催!!

12月16日、浜高教バレーボール大会が戸塚高校で行われました。5分会から、メジャー2チーム、レジャー4チーム、計50名が参加しました。4年ぶりの開催で、とても盛り上がり、親睦を深めることができました。

メジャーリーグ 優勝：(桜丘) SSC 準優勝：(横総) 弘明寺

レジャーリーグ 優勝：(YSFH) セイジーズ 準優勝：(戸全) 戸塚高校全日制  
3位：(横総) 大岡2丁目 4位：(戸定) とていわいわい

桜丘分会チーム →



← 横総分会チーム



YSFH分会チーム →



← 戸全分会チーム



戸定分会チーム →



## 「新年のご挨拶」前号のつぎ

### 新年のご挨拶

横商分会 足立英里佳

あけましておめでとうございませう。今年もよろしくお願ひいたします。早いもので令和も6年となりました。コロナ禍から世の中が脱したとは言ひ切れぬ部分ではありますが、様々な場面でそうしたことを感じられるようになってきました。(もちろん

### 横総の近況

横総分会 井森和敬

あけましておめでとうございませう。

新型コロナウイルス感染症が第5類に変更になり、横総分会でも以前の学校生活の活気が戻ってきた。長らく叫ばれていた教員不足を解消するべく、教員免許の有効期限の撤廃や教職調整額の引き上げが実施され、少しは働きやすくなってきた。職場環境は、最近のインフレの影響でコンビニでの買い物は控え、お弁当生活を開始したり、自動販売機での購入を避け学校の水道水をこれでもかと摂取したりする毎日である。他にも様々な困難が点在するが、本校の強みである前勤務、後勤務を合わせた多くの職員でこの新しい局面を乗り越えていくと思う。その中で、様々な世代や知識を持った者が情報を共有し、教科の枠を超えてお互いの力を高めようとする環境や雰囲気醸成されてきている。その強みを生かして、困難な時期ではあるが、工夫を凝らしながら、前向きに活動していきたいと思っている。

【2面につづく】

# 【1面より】 謹賀新年

実教部 小島 純

今年も宜しくお願い致します。

コロナ対策もゆるくなり、全国学習集会や関東ブロック大会など、リモートでなくリアルな会になりました。全てが戻ったとは言えないものの、実際に会ってコミュニケーションをとりながらの会は実教部としてのこれからの実験実習教育を教えるための基本となるものと確認しました。今、浜高教での実教の数は本当に少数になり、Y別の理美容という専門性特殊性の高い実教部員で頑張っている活動しています。次年度は関ブロの開催が横浜での予定になっています。そこでは横浜の状況などをつたえていければと思います。皆様の力をお借りして活動を盛り上げていきたいと思っています。

「辰心功成」！辰のように勢いだった心で成功を収める年に行きましよう！

## ワーク・ライフ・バランスを大切に

女性部 田中法子

新しく2024年を迎え、入試や年度末に向けた業務等で先生方もお忙しくされていること存じます。一年を通して落ち着いた時期を探るのが難しい仕事ではありますが、教職員の誰もが、休息を十分にとりながら、ワーク・ライフ・バランスを大切にしながら、充実した良い一年を過ごせたら幸せだなと思っています。今年も昨年同様、龍は十二支で唯一空想上の生き物ですが、我々の願いを空想ではなく無事に叶えてくれる存在として1年間見守ってくれることを期待します。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

## 手話を使ったドラマ

障教部 佐々木麻里

年末、草薨くんが手話通訳士を演じるドラマが放映されました。去年、今年と手話を使ったドラマが多くありました。つい、どんな手話を使うのかしら、手話の表現はどうかしらという目で見てしまいがち、内容を素直に楽しめないのは、聾学校があるかもしれない。今回のドラマは本筋の殺人事件だけではなく、会話の中にも聴覚障害者の歴史や課題が出てきていたのは印象的でした。

聴覚障害者だけではなくさまざまな障害について、ドラマから知ることが私は多くあります。ドラマが教えてくれるのを待っているだけではなく、特別支援学校の現状について、多くの人に知ってもらい、より良い学校にしていけるように、今年も皆さんと力を合わせて行きたいと思えます。よろしくお願ひします。

## 新年のご挨拶

青年部 藤森 健

新年あけましておめでとうございませう。

2023年はつながりの重要性を再認識した一年となりました。コロナが5類に引き下がり、制限や制約が少しずつ取り去られ、希望になりかけたつながりを取り戻せた一年でした。青年部としての2023年は、横浜開催となった青年部大都市交流会が挙げられます。他都市との交流によりオンラインでは伝わりきらないリアル的重要性を実感し、横浜市の間とつながりをより強められた交流会になりました。新年を迎え、本年は昨年以上に仲間とのつながりを大切に、このつながりを絶やさず増やせる、そんな一年になるように、できるようにしていきたいと思っております。

# 第67回神奈川県母親大会報告

1月14日(日)、第67回神奈川県母親大会が茅ヶ崎文化会館で開催されました。午前と午後の部に分かれ、午前は七つのブースに分かれて原稿を題材とした映画上映、教育、社会保障、ジェンダーと性教育など、それぞれの分科会のテーマに沿ったお話を聞くことができました。

午後は全体会が開催され、「圓蔵祭囃子」と「菱沼祭囃子」のみなさんによる茅ヶ崎祭囃子の演奏からスタートしました。祭囃子はかつて多くの地域で盛んでしたが、戦後そのほとんどはとりやめられてしまいました。茅ヶ崎祭囃子連合会」はその技能の継承および発展と、後継者の育成にも努めているそうです。どこか懐かしい太鼓や笛の音に、日本の伝統芸能のすばらしさを実感させていただきました。

その後、司会の一宮真理さんの開会あいさつ、実行委員長の福田やよいさんの主催者あいさつをいただき、記念講演となりました。記念講演は、東京新聞記者の望月衣塑子さんによる「真実を伝え、人権を守る報道を市民が見抜く力をつけよう！」というテーマで行われました。冒頭、能登半島地震について触れ、阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震と比較した政府の対応の現状などをお話いただきました。その後も、軍備拡大や外国との関係、税の負担など、普段は難しく避けてしまいがちな内容も丁寧に解説をいただいた。会場からは驚きの声や拍手が何度も起こりました。望月さん自身も、とても快活でハキハキと話される方で、そのお人柄にとっても魅力を感じました。私



ち、参加するようになりました。今回の講演は、その背中を後押ししてもらったものとなりました。最後に、各運動の交流とともに特別決議の提案などがあり、閉会となりました。

(Y別分会 久家紗希)

私は午前は第一分会で映画「原発を止めた裁判長」の視聴とソーラーシェアリングを神奈川県で実践している小山田大和さんのお話を伺いました。映画は原子力発電の危険性を伝える活動を続ける元裁判長と、放射線被災であきらめ

## 「大都市高教女性部分科会」報告

女性部分科会は、大阪府高教1名、名古屋高教1名、そして浜高教3名の計5名参加で行われました。

はじめは「女性部の運営はどうしている？」と名古屋の渋谷さんからの質問を受けての情報共有。名古屋の女性部の活動は盛んだけど、女性部役員や部員の負担が大きいのが悩みの種。大阪府や横浜市からこんな感じで簡素化しているよという話が出て、渋谷さんは「いろいろと参考になります」と表情が明るくなっていました。

次の話題は権利、特に子育て支援の権利。前日の第1分科会で、子の看護休暇の対象に、子どもの行事や代休、学級閉鎖、台風による休校も含まれる都市があるという話で、盛り上がりました。まさに子育て真つただ中の浜高教の田中さんは、「子育てに関

自身母親となり、我が子の未来のために政治や社会に関心を持ちたい。た農業を太陽光発電によってよみがえらせる福島の人々取材したドキュメンタリーで、原子力発電所の危険性と、危険にも関わらず、なぜ原子力発電停止を求め多くの裁判では敗訴となるのかを描かれており、また、原発に代わる太陽光発電がいかに有用かを教えてくれるものでした。その後の小山田さんの話ではソーラーシェアリングの普及による安全で持続的な発電の未来を思い描かせてもらえました。午後は「真実を伝え、人権を守る報道を市民が見抜く力をつけよう！」というテーマで、平和に安心して誰もが過ごせる社会の実現のためには、私たちの微力ではあっても無力ではない行動が求められている、と切に思わせてくれる望月さんのパワー溢れる講演でした。大ホールはほぼ満員、講演以外に物販販売や足踊り、祭囃子の披露などもあり、活気溢れる一日となりました。

(東分会 高橋佳代)

## 「インクルーシブ教育について」報告

十月二十九日(日) 十三時三十分から平労会館において「かながわ民研二〇二三年度総会」が開催され、第一部では学校現場からの報告というところで、①県立高校のインクルーシブ教育の現状と課題、②横浜市立A中学校の個別支援学級の現状と課題が報告されました。また総会記念講演として全国障害者問題研究会(全障研) 副委員長・日本障害者協議会(JD) 副代表の蘭部英夫さんによる講演「障害者権利条約とインクルーシブ教育」国連・総括所見と北欧の教育に学ぶ」がおこなわれました。

日本は一九九九年に身体障害者福祉法、一九五〇年に精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、一九六〇年に知的障害者福祉法が制定されましたが、障害者基本法が制定されたのは一九七〇年でした。しかし、本格的に障害者福祉に力を入れたのは、国連が一九八一年を国際障害者年としてからだそう。一八七か国で批准されている国連の障害者権利条約を日本が批准したのは二〇一四年。一四一番

(木立敏樹)